

# たけら

TAKUSUI  
No. 740

6

June.2018

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



関西学院大学学生によるカキ種付け (赤穂市坂越)

## 各団体の総会

## 摂播漁青連・関学 消費流通検討交流会

《今月の海上安全標語》 ～ 何事にも決まり事がありますよね ～

漁の決まり事 ライフジャケットの着用義務

「俺は着けなくても…」という方も、浜で待っている家族のためと思って、是非着用して下さい!!

**決まり事 必ず守ろう 皆のため** では、今月も安全操業で!

# ようこそ

「ずっと真つ直ぐに」

（ようこそとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときに号令として使われる）

## 思い出を胸に帰郷

兵庫県農政環境部 水産課職員 梶原 慧太郎



初めて執筆させていただきました、県水産課の梶原と申します。就業してから日が浅いため、本稿では皆様への自己紹介も兼ねて、北海道で過ごした学生時代から現在までに至るまでの経緯をもとに、綴らせていただきたいと思います。

私が兵庫県の水産業に携わるようになったきっかけですが、大学・大学院時代は遊び呆けており、勉強などろくにしない自堕落な学生生活をおくってしまいました。やがて就職活動にとりかかる時期となり、芳しくない成績の私を見かねた当時の研究室の指導教官が、私が高砂市出身であることを考慮して紹介してくれたのが始まりでした。運良く拾ってもらえることができましたが、専攻分野と全く異なる業務内容に加え、なげやりで能天気な性格も相まって、入庁から現在に至るまで各種関係団体の皆様に迷惑をかけた日は未だに訪れていません。

先ほど専攻分野という言葉がありました。学生時代は北海道周辺海域の魚類の生態について研究しており、練習船に乗りながら月1〜2回のペースで津軽海峡、道南太平洋、道南日本海へ調査に出かけていました。乗り物酔いが激しい私にとって冬の調査は大変過酷なものでした。氷点下2桁に達する気温の中で、嘔吐を堪えながら観測を行った日々は今でも夢に出てくることがあります。それでもデッキから眺める壮大な景色は、講義室では味わえない大自然の魅力を教えてくれ、また奇々怪々とした海洋生物との出会いは、十二分に私の知的好奇心を満たしてくれました。人生の一部を、北海道という場所で過ごすことができたという経験は、現在の私にとってかけがえない大切な思い出となっています。

故郷を旅立つてから実に6年ぶりの帰郷となりました。これまでの経験を本県の水産振興に活かすことができれば、私にとってこれ以上の幸せはないでしょう。地元兵庫の豊かな海の再生とさらなる水産業の発展のため、思い出を胸に今日も頑張ります。

## CONTENTS

No.740 June. 2018

- 2 ようこそ
- 3 摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会 通常総会  
淡路地区漁協青壮年部連合会 通常総会
- 4 淡路地区漁協女性部連合会通常総会・研修会  
一般社団法人 淡路水交会 通常総会
- 5 淡路漁協職員協議会 通常総会  
命を守る運動担当者会議  
海難事故をなくそう
- 6 淡路 農業×漁業の若手組織連携プロジェクト
- 7 関西学院大学田和ゼミ(文学部)との消費流通検討交流会
- 8 大輪田塾 第14期生 募集
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う  
大輪田塾だより



### 表紙の言葉

#### 関西学院大学学生によるカキ種付け(赤穂市坂越)

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会と関西学院大学文学部 田和 正孝教授のゼミ生との交流は5年目、昨年のタコ釣り実践に続き、漁業現場での体験学習となりました。

学生たちは漁業者と直接交流を図ることによって、カキ養殖漁業の知識のほか漁業者の想いや結束を感じてくれたようです。

今回の体験を多くの人に発信していただき、兵庫県の漁業への理解や海を愛する心に繋げてほしいものです。

(7ページ記事参照)

# 平成30年度 摂津播磨地区漁業協同組合 青壮年部連合会 通常総会



大西会長挨拶

5月19日(土)、兵庫県水産会館において、摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会(14会員部員計250名)は平成30年度通常総会を開催しました。冒頭、大西正起会長(JF伊保)は「昨年度も消費流通検討会として大学生に対し漁場見学などの体験学習等の活動を行ってきました。本年度も引き続き浜に若者を招き漁業を知ってもらう活動をはじめ、各協同組合間との連携や資源保護など我々青年部にしかできない活動を行っていきたいのでよろしくお願います」と挨拶しました。総会は、平成29年度の事業報告、平成30年度事業計画の他、「ガザミふやそう会」の報告・事業計画・役員改選の議案が審議され、すべて原案通り承認されました。

総会後の学習会では、藤倉船装株式会社の大山氏より、自動膨張式ライフジャケットの説明と作動体験が行われ、作動後のボンベ交換の方法などについて参加者は熱心に聞き入っていました。

最後に、恒例となったビンゴ大

5月19日(土)、兵庫県水産会館において、摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会(14会員部員計250名)は平成30年度通常総会を開催しました。冒頭、大西正起会長(JF伊保)は「昨年度も消費流通検討会として大学生に対し漁場見学などの体験学習等の活動を行ってきました。本年度も引き続き浜に若者を招き漁業を知ってもらう活動をはじめ、各協同組合間との連携や資源保護など我々青年部にしかできない活動を行っていきたいのでよろしくお願います」と挨拶しました。総会は、平成29年度の事業報告、平成30年度事業計画の他、「ガザミふやそう会」の報告・事業計画・役員改選の議案が審議され、すべて原案通り承認されました。



ビンゴ大会



ライフジャケット講習

会が行われ、豪華な賞品が用意されるなか、大いに盛り上がりました。(文：摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会)

5月25日(金)、洲本市内のホテルにおいて、淡路地区漁協青壮年部連合会(17会員部員計243名)の平成30年度通常総会が開催されました。山崎大輔会長(JF淡路島若屋)の挨拶、来賓紹介に続いて、谷副会長(JF南あわじ)を議長に議事が進められ、平成29年度事業報告、平成30年度事業計画・役員改選などの議案が審議・承認されました。新年度事業計画として、栽培漁業・資源管理型漁業の推進、環境保全への取り組みなど7つの項目のうち、「淡路の魚」のブランド化を積極的に進めていくことが確認されました。

総会終了後の学習会では、(公社)日本水産資源保護協会派遣講師として、鹿児島大学水産学部鳥居亨司准教授による「伊勢湾・三河湾のイカナゴ漁業管理と現状と課題」と題した講演が行われ、兵



山崎会長挨拶

# 平成30年度 淡路地区漁協青壮年部 連合会 通常総会



イカナゴの資源管理講義

庫県でも資源量が危ぶまれているイカナゴについて、他県の漁業管理方法や今後の展望等の話に参加者は熱心に聴き入っていました。(文：淡路地区漁協青壮年部連合会)



平成30年度 淡路地区漁協女性部  
連合会通常総会・研修会



5月22日（火）、淡路水産センターにて、平成30年度淡路地区女性部連合会（森 武美会長…JF南あわじ）通常総会が開催されました。

9会員25名と洲本農林水産振興事務所 眞鍋 厚所長補佐、（一社）淡路水交会 東根 壽会長、JF兵庫漁連 田中 稔彦参事はじめ来賓11名の出席のもと、平成29年度事業報告及び収支決算、同30年度事業計画及び収支予算、役員交代に伴い新役員が承認され滞りなく終了しました。

総会の後、大阪大学人間科学研究所 未来共創センター 招へい教授 石蔵 文信氏を講



石蔵文信氏の講演

師に迎え、「楽しく生きるためのパートナーシップ 共に依存しない生き方を目指して」と題して、共存せず自立した生き方をすることや、互いを思いやることの大切さについて学習しました。石蔵氏の楽しい語り口によりお話しに引き込まれ、女性部の皆さんの関心はとも高く熱心に受講されていました。

（新役員のご紹介…敬称略 ● 監事 溝尾 八重（JF浅野浦）  
（文…淡路地区漁協女性部連合会）

地産地消の推進・国・地方・漁業者の連携強化を図る  
～一般社団法人 淡路水交会通常総会 開催～

一般社団法人 淡路水交会（東根 壽会長…JF淡路島岩屋）は、6月1日（金）に、洲本市内のホテルで第8回通常総会を開き、17会員の代表者や県議会、行政機関、系統団体からの来賓出席者ら44名が出席しました。

審議に先立ち、東根会長は「地産地消の推進を通して地魚の鮮魚販売拡大に繋がるように取り組む。瀬戸内海環境保全特別措置法の改正・施行により、今後は豊穡の海を取り戻し、漁業者が安心して漁業経営を行うことが出来るように、10年・20年後の将来を見据えた対策をたて、国・地方と漁業者が一体となって取り組む。」と挨拶しました。

続いて、兵庫県議会永田 秀一議員、吉村 文章淡路県民局長、



田沼 政男JF兵庫漁連会長がそれぞれ来賓を代表し祝辞を述べられました。総会はJF洲本炬口竹岡組合長を議長に選出し、平成29年度事業報告、平成30年度事業計画、役員改選などの議案が原案通り可決承認された後、社領弘副会長（JF一宮町）の閉会の挨拶で終了しました。

（文…一般社団法人淡路水交会）

# 淡路漁協

## 職員協議会 通常総会

淡路漁協職員協議会（濱端正司会長・JF洲本炬口・会員数102名）の平成30年度通常総会が、6月2日（土）に洲本市内ホテルにて開催され、会員と来賓約40名が出席しました。

総会は、主催者挨拶に続き、来賓の（一社）淡路水交會東根 壽会長、兵庫県淡路県民局 洲本農林水産振興事務所 眞鍋 厚所長補佐、JF兵庫漁連 田中 久善指導部長より祝辞がありました。

続いて4名に対する職員永年勤続・特別功労者表彰が行われた後、平成29年度の事業報告と収支決算、平成30年度の事業計画と収支予算等が審議され、上程された議案はすべて原案どおり承認されました。

今年度も漁協基盤の強化を目指し、講習会・研修会を通じて職員の知識の向上に努めることを再認識し、総会は滞りなく終了しました。

## 「命を守る運動担当者会議」を開催



「命を守る運動 海上安全講習会」は、県内JFと系統5団体（JF兵庫漁連・共水連兵庫県事務所・日本漁船保険組合兵庫県内海支所・ひょうご豊かな海づくり協会・兵庫県水産振興基金）が関係行政機関の協力を得て行っており、毎年、各団体の担当者が集まり、今後の活動等について話し合っています。

今年度は5月24日（木）に水産会館で行われ、神戸運輸監理部、神戸・姫路の海上保安部、舞鶴海上保安部、県水産課の担当者も加わり、今後の活動について意見交換を行いました。

会議では、前年度の活動実績や海難事故の発生状況について報告があったほか、本年度の活動計画について話し合われました。また、集まった担当者から海技大学校でのシミュレーター講習の開催、ライフジャケット着用の周知徹底など海難事故防止のための様々な提案も交えた活発な意見交換が行われました。

# 海難事故をなくそう！

～安全をサポート～  
浮力合羽はお持ちですか？



モデル：県水産課 漁政班  
梶原慧太郎さん

救命合羽はJF兵庫漁連が開発したもので、皆様の安全をサポートします。



ライフジャケットを  
着用しよう！

ライフジャケットを着用することで助かる可能性は飛躍的に向上します。

自分自身のために、そして、家族のために是非、着用してください！



“平成30年2月より  
ライフジャケット  
着用義務化！”

モデル：大輪田塾13期生  
土井 祐樹さん  
(JF明石浦)

ライフジャケット・浮力合羽の購入は  
所属JFかJF兵庫漁連のり海藻部資材担当(078-942-9272)までお問い合わせください

# 淡路 農業×漁業の若手組織連携プロジェクト ～淡路産の農水産物イベント～

淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎大輔会長・JF淡路島岩屋）は、洲本市の農業後継者グループ「洲本市農業青年会議」と協力して、淡路島の農水産物PRや漁業やおさかなを知ってもらおうと、5月20日（日）淡路市ハイウェイオアシスでPRイベントを開催し、青年部員たちで作成した淡路島のお魚販売店マップをはじめ多くのPR広告を配布するとともに、アンケート調査を実施しました。アンケートにご協力頂いた方が参加できる、玉ねぎの重さ1kgを測る「玉ねぎチャレンジ」、ワンコインでビニール袋に玉ねぎを詰める「玉ねぎ詰め放題」では、大行列が出来るほどの盛況ぶりです。賑やかな声が人、また人を呼び多くのアンケートを集めることができました。また、タッチングプールでは大勢の子供たちが水槽を取り囲み、普段見たり触ったりすることが出来ない生きているサメや

アナゴ、タコに興奮しっぱなしで、子供たちと一日中遊んだお魚さんも疲れた様子でした。

今後の活動としては、今回のイベントの反省とアンケートを参考に次の事業についての打合せを行い、さらに淡路島の食材や地域の重要な産業である一次産業を広くPRしていく活動へ結び付けていく予定です。

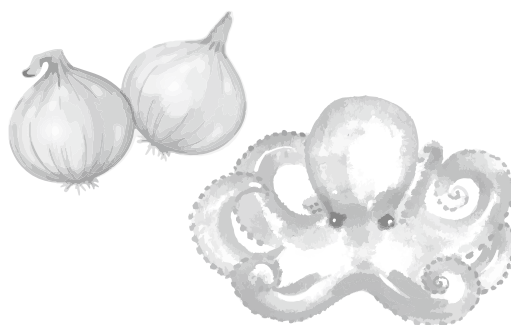
（文：淡路地区漁協青壮年部連合会）



多くの人に協力いただきました



大人気タッチングプール



# 関西学院大学田和ゼミ(文学部)との

## 消費流通検討交流会を開催

### カキ養殖について学習

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会(大西 正起会長・JF伊保)は、関西学院大学文学部 田和 正孝教授のゼミ生との交流を平成25年から続けており、今年も「消費流通

検討交流会」と題して6月2日(土)、赤穂市坂越の海の駅しおさい市場で開催されました。

今年、カキの種付けから収穫・カキ剥きまで行い、カキ養殖を通じ漁業の大変さ、素晴らしさを体験してもらおう予定です。

田和教授とゼミ生ら17名は、赤穂市漁協青壮年部大河弘樹部長より西播地区で盛んなカキ養殖についての説明を聞き、カキ幼体の着いたホタテ貝をロープに付ける作業を行いました。

その後、カゴ漁を体験しつつ快適なクルージングを堪能し沖にあるカキ養殖筏へ移動しました。養殖筏へ乗り移りましたが、竹と塩パイプで組んだ丸い足場に歩くのに一苦労。なんとかロープを吊るす場所まで移動し、カキを吊ることができました。

今後はグループLINEでカキの生育状況等を情報発信し、1月の水揚げに向けてまず交流の輪を広げていく予定です。



指導を受けながら種付け作業



カキ養殖について説明



作業後は特製シーフードカレーに舌鼓



筏での作業

### 体験の感想

一部抜粋

牡蠣養殖については収穫の様子しか見たことが無く、種付けやイカダに紐を吊るす工程は初めて知りました。単調であるとともに大量にこなさなくてはならないこの工程は、養殖の基礎になる作業であるとも、大変かつ重要な作業であるとも思いました。イカダ一隻に1000本近い紐を吊るし、そのイカダが数百数十とあると聞いて、改めて第一次産業というもの、の苦労や工夫に感嘆するとともに、ありがたみを感じました。

普段スーパーで水産物を買っただけでは知ることのできなかつた、生産者の方々の努力や苦労、そして皆さんの素顔を知る事ができてよかったです。年によって不作があったり、漁業者によって漁獲量が異なるなど、ご苦労や大変なことも多いとのことでしたが、そうした中で牡蠣のブランド名を考えたり、オリジナルティを打ち出していく点は素晴らしいと思いました。

販売用のカキの値段を見る

と、決して安いとは言えませんでした。しかし、冬は寒く、特に筏の上は足元も不安定な中で、手作業でカキづくりをされているということを知った上でみると、妥当な値段であると思えました。また、漁業に従事されている方々同士の仲が良く、とても楽しそうで、結束力のたさがうかがえました。学生にも優しく気さくに話しかけてくださって嬉しかったです。今日の体験を通して、自分自身も漁業って楽しいと思えましたし、こういった経験を行うことで将来、漁業に携わりたいと思う人たちも出てくるのではないかと考えました。

大学で勉強してきた漁業では、高齢の漁業者の皆さんが少数で行なっている、という内容のものが多かった。しかし、今回お訪ねした坂越の漁港では若い人も多く、漁業に対して持っていた自身の印象が少し変わりました。牡蠣のシーズンには朝の4時から養殖場へ何度も行き来すること、来年の1月に再び赤穂に行つて、どのように牡蠣を引き揚げるのか見てみたいと関心が大いに湧きました。

# 大輪田塾 第14期生 募集しています。

平成17年に開講された「大輪田塾」は、めまぐるしく変化する社会・経済情勢に対応し、将来にはJF組織を支えていける人材、つまり「浜のリーダー」育成を目的に始まったもので、多くの修了生が、JF組合長・理事などを務め、地域のリーダーとして活躍されています。

講義は、県・系統団体をはじめ多彩な講師陣による月1～2回の座学を中心に、外部研修や事務局が適当と認めた会議等も聴講できるといった幅広い知識の習得が可能なカリキュラムを組んでいます。

大輪田塾では、現在、今秋入塾される第14期生を募集しています。  
皆様のご応募をお待ちしております。

## ◎応募資格

- ①原則として、漁業歴10年以上かつ45歳未満
- ②原則として、JF職員歴10年以上かつ45歳未満

のいずれかに該当する者で、所属する組織代表者の推薦を受けた者

## ◎在籍年限

原則2年（最長3年）

募集は8月末まで。その後、面接を行い、運営委員会の選考を経て、10月（予定）に入塾式を行います。

（詳しい募集要領は各JF・団体宛に通知させていただきます。）

問合せ先（事務局） **（一財）兵庫県水産振興基金**

〒673-0883 明石市中崎1丁目2-3 TEL 078-919-1331



水産会館での講義の様子



視察研修 大西コルク工場見学（H 29. 8）



## JA兵庫教育センター開設 20周年

### 一人づくりへの役割発揮

JA兵庫中央会のJA兵庫教育センターが、コープこうべ協同学苑（三木市）内に開設し、20周年を迎えました。同センターは、平成10年に同生協の協力を得て、JAグループ兵庫役職員の教育研修拠点として、明石市にあった「農協研究所」を発展させ、開設しました。

同センターは、JAグループの役職員が、階層別の研修や資格試験の実施、JAの研修体制の確立支援を行っています。一般職を対象とした「みどり塾」、課長・支店長クラスを対象とした「あおい塾」、部室長クラスを対象とした「くすのき塾」を開講するなど、協同組合運動を支える人づくりに役割を発揮してきました。その修了生は29年度末で1,188となり、JAを支える人材として活躍しています。

また、27年度からは、コープこうべとJAの職員が「協同組合の使命と職員の役割」をテーマとしてともに学び合う「協同組合塾」を年3回開講し、これまでに約300人が参加、交流を深めています。

5月9日には、同学苑内で20周年記念式典を開き、県内JA、連合会、来賓として県、コープこうべ関係者52人が出席しました。開設と運営に協力していただいたコープこうべの木田克也組合長とJAグループ役職員教育に貢献された神戸大学の保田茂、高田理の両名誉教授に感謝状を贈りました。また、JAと生協の協同関係がこれからも続くよう想いを込めて桜の木を植樹しました。



石田会長(左)と木田組合長による記念植樹

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

## 災害支援の取り組み

阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨…災害がおこる中、会員生協・団体で様々な支援活動が継続して行われています。支援の一部ですがご紹介させていただきます。

### 【生活協同組合コープこうべ】

「九州北部豪雨災害ボランティアバス（コープこうべ協働号）」

松末中村地区で民家の床下泥出し作業などの支援を行いました。

9月22日（金）  
～25日（月）



### 【西宮市職員生活協同組合】

「東北復興支援イベントIN阪神競馬場」



東日本大震災復興支援として女川汁、女川町・南三陸町の物産の販売とパネル展示を行いました。

12月2日（土）

### 【神戸医療生活協同組合】

「熊本地震被災地支援」

西原村仮設住宅で健康相談・健康チェック・たこ焼きやアイスクリームを提供しました。

8月26日（土）  
～27日（日）



### 【ろっこう医療生活協同組合】

「大船渡支援・水道筋さんまつり」



大船渡から届いたさんまを炭焼きし販売。収益金を義援金として送りました。

10月1日（日）

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## 雨中にて候

◆日本は多雨の国だ。そして我々は農耕民族の末裔であり、雨の恩恵は計り知れない。四季を通して色んな雨に出遭う。春の雨は「慈雨」とも言って万物に生命を吹き込み、降る毎に樹々が元気づく。別名を《花の親》ともいう。「春雨」は煙るようで、濡れるのも厭わぬ風情があり「春雨じゃ濡れて行こう」と芝居の台詞になった。樹々の固い芽が結び「愉快雨」の三字熟語もある。春の山肌に若葉が弾けて日毎に変わり、思わず笑顔になって《山笑う》と季語にいう。時には待ち望んだり、又は恨めしく思ったり、雨には二つの顔があるようだ。

◆雨を描いた版画に、広重の東海道五十三次「庄野」がある。俄か雨に走る農夫や旅人の姿を描いて、慌ただしさが感じられる。あとゴッホが模写した江戸名所百景「大はしあたかの夕立」は名品だ。大慌ての人々が右へ左へ駆ける様子を描写している。薄墨と少し濃い墨色で雨を表す。大工仕事で板取りに使う【墨壺】で引いた直線のように、実際は定規も使わずに腕の感覚だけで一気に彫っており、神業のような線の細さに驚嘆させられる。摺り師の【ほかし】技も見事だ。版画の命と言われる彫り師・摺り師の細心の技術から、大慌てする人々の足音や、降りしきる雨脚の音までも、聞こえて来るような気がする。

◆雨を描く場合、通常は糸を引くように細い線で書くが、本来の雨粒は点なのである。肉眼では一本の線に見える雨粒だが、病院で受ける点滴のように丸みを持った滴の形をしている。絵本ではラッキョウ型に描かれているが、本来の雨粒は球形をしており、大粒の雨は饅頭型で下面が平らだという。しかし絵本に出てくる雨粒が、饅頭の形ではサマにはなるまい。たとえ絵本作家の作り物ではあっても、ラッキョウ型の可愛い滴が相応しいようだ。雨を詠んだ俳句にも、情緒の溢れた優れたものが多い。「でで虫の雨や明石の蛸壺に／青畝」

◆雨の名前を集めた解説本を読んだ。著者は詩人で内容に合わせた沢山の写真が配置されている。こんなにも雨を表す言葉が有ったかと語彙の豊富さに驚いた。写真も雨の表情を見事に表して、感性の鋭さと情緒の豊かさを感じさせる。雨中での撮影はサザン苦しいと思う。「梅雨」は六月半ばかり凡そ一カ月ほど続く。この長い雨期に對する言い回しも実に豊かで、地方により呼び方が丸で違っていて面白い。暑い夏を迎える前の、鬱陶しい長雨の季節を何だか愉しんでいるようで、長雨に我らは稲作民族だったと自覚させられる。時には猛烈な集中豪雨となり、土石流などの被害をもたらすが、青い田圃にカエルの激しい鳴き合戦が聞こえるのは、豊かに安定した平和を感じさせる景色でもある。

# 大輪田塾だより

## 「漁業・水産業における6次産業化からフードチェーンへ」と「食都神戸2020」

5月22日(火)に大輪田塾が開講されました。

第1部の「漁業・水産業における6次産業化からフードチェーンへ」では、6次産業化プランナーで大阪大学招聘教授の光井 将宇氏より6次産業化の基礎や商品のターゲットユーザーの絞り込みやニーズ分析、調査・検討などについて詳しい説明を受け、塾生からは、個人経営体での取組方法について質疑があり、農業の事例を交えながら取組方法についての説明が行われました。

第2部の「食都神戸2020」では、大輪田塾第1期生でありJF神戸市副組合長 前田 勝彦氏よりJF神戸市や神戸市が取組んでいる食都神戸2020について、水産加工品などの海外展開に向け各国で開催される展示会への参加、SNSやマスコミを駆使したイメージ戦略の説明を受けました。

塾生からは、洗練されたパンフレットや外国人観光客を受け入れるインバウンドツアーへの質疑など、有意義な講義となりました。



食都神戸2020



6次産業化講義